

釘田第一地点（鹿児島大学教養部）遺跡発掘調査報告

— 住居址出土遺物の概要 —

（昭和50年度 鹿児島県教育委員会文化課調査）

平成6年度教育研究学内特別経費研究成果報告書

平成7年3月

研究代表者 上 村 俊 雄

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

序 文

釘田第一地点遺跡は、1975（昭和50）年、教養部校舎増築工事中に発見された古墳時代を主体とする集落遺跡である。当時、鹿児島大学には考古学の専門教官がいなかったため、鹿児島県教育委員会に調査を依頼し、発掘調査が行われた。

遺跡地は、明治中期以前は鹿児島郡中村大字毘沙門小路字釘田であったところから釘田遺跡の名がついた。遺跡は、20m四方の範囲に29基の複合住居が切り合った状態で確認されており、現在の教養部敷地内は大集落が存在していたことが予想される。出土した土器は成川式土器と呼ばれるもので、当時は弥生時代のものとされていたが、釘田遺跡第一地点において、成川式土器と古墳時代の須恵器が同一層位から出土したことから成川式土器の編年的位置を見直す端緒となった学史上注目すべき遺跡である。

鹿児島大学埋蔵文化財調査室では、平成3年度に教育研究学内特別経費による『南部九州地域における原始・古代文化の諸様相に関する総合的研究』の中で、発掘担当者のご協力を得て、釘田第一地点遺跡の遺構と遺構出土遺物の報告を行っているが、20年前の発掘調査ということもあり、未報告分を残すこととなった。本プロジェクトはこれに継続するものである。当遺跡の遺物は古墳時代の基本資料となるべき質と量を備えるものであり、今後も継続して報告を行っていく予定である。

最後に鹿児島大学当局、ご協力頂いた関係各位に心から感謝したい。

例 言

1. 本報告書は鹿児島大学教育研究学内特別経費による研究成果報告書である。

研究課題：鹿児島大学構内遺跡の遺跡報告（釘田第一地点住居跡出土遺物の整理）

研究代表者：上村俊雄 鹿児島大学埋蔵文化財調査室長

研究分担者：中村直子 鹿児島大学埋蔵文化財調査室助手

大西智和 鹿児島大学埋蔵文化財調査室助手

研究経費：265万円

研究成果：本書

2. 本報告は、釘田第一地点発掘調査結果のうち、住居址出土の遺物についての概要を報告するものである。

3. 遺物の整理作業は、大西智和・中村直子・峰山いづみ・前幸男・黒木綾子・小原愛・星野恵美が行った。図面は峰山が作成した。本書の執筆・編集は中村が行った。

目 次

1. 研究目的	1
2. 遺跡の概要	1
3. 整理の経過	1
4. 住居址出土遺物	1
5. まとめ	21

挿 図 目 次

Fig. 1 遺跡の位置	2
Fig. 2 鹿児島大学郡元団地構内図	3
Fig. 3 釘田第一地点遺構平面図	4
Fig. 4 器種と部位	5
Fig. 5 遺物の出土状況	21

表 目 次

Tab. 1 2号住居址出土遺物	6
Tab. 2 3号住居址出土遺物	7
Tab. 3 4号住居址出土遺物	7
Tab. 4 5号住居址出土遺物	8
Tab. 5 6号住居址出土遺物	8
Tab. 6 7号住居址出土遺物	9
Tab. 7 8号住居址出土遺物	9
Tab. 8 9号住居址出土遺物	10
Tab. 9 10号住居址出土遺物	10
Tab. 10 10号および11号住居址出土遺物	11
Tab. 11 11号住居址出土遺物	11
Tab. 12 12号住居址出土遺物	12
Tab. 13 13号住居址出土遺物	12
Tab. 14 14号住居址出土遺物	13
Tab. 15 15号住居址出土遺物	13
Tab. 16 16号住居址出土遺物	14
Tab. 17 17号住居址出土遺物	14
Tab. 18 18号住居址出土遺物	15
Tab. 19 19号住居址出土遺物	15
Tab. 20 20号住居址出土遺物	16
Tab. 21 22号住居址出土遺物	16
Tab. 22 24号住居址出土遺物	17
Tab. 23 25号住居址出土遺物	17
Tab. 24 26号住居址出土遺物	18
Tab. 25 27号住居址出土遺物	18
Tab. 26 28号住居址出土遺物	19
Tab. 27 29号住居址出土遺物	19
Tab. 28 30号住居址出土遺物	20
Tab. 29 31号住居址出土遺物	20

1. 研究目的

鹿児島大学郡元団地は、これまで行われた発掘調査によって、古墳時代の集落遺跡として知られている。しかし、昭和50年代に行われた発掘調査結果については、未報告のため、その内容は明らかにされていない。昭和50年代に発掘調査された主なものは釘田第一地点（教養部）、釘田第六地点（法文学部）、釘田第八地点（理学部）、釘田第九地点（教育学部第二体育館）の4遺跡が挙げられる。特に釘田第一地点と釘田第八地点は、鹿児島大学構内遺跡の中でも古墳時代を主体とする埋蔵文化財が最も多く包蔵されている地点であり、これらの資料は該期の研究にあたっての基礎資料となるだけの質と量を備えている。そのため、これらの報告を出すことにより、大きな成果が上げられると期待できる。

埋蔵文化財調査室では平成3年度に、「釘田第一地点（鹿児島大学教養部）遺跡発掘調査報告—遺構および遺構出土の遺物編—」として釘田第一地点の報告を行っている¹⁾が、遺構出土の遺物は、遺物取り上げナンバーと遺物台帳との照合が徹底しなかったため、未報告分を残すこととなった。今回は、これを受けて、釘田第一地点の住居址出土の遺物の再整理を行うことを目的とした。

2. 遺跡の概要

鹿児島大学は南部九州薩摩半島東岸部のほぼ中央に位置する鹿児島市に所在する（Fig. 1）。郡元団地は、その沖積平野に立地し、古墳時代の集落跡として知られている（Fig. 2）。その一部である釘田第一地点は、昭和50年に鹿児島大学教養部校舎増築基礎工事において土器片が発見され、鹿児島大学の依頼によって鹿児島県教育委員会が発掘を実施した。

調査の結果、6つの基本層位を確認し、そのうち、Ⅳ層から多量の遺物が出土している。また、29軒にのぼる住居址と、溝状遺構を検出した（Fig. 3）。住居址はほとんどが方形の平面プランを呈し、かなり密集して検出し、数回にわたって建て替えられたものと考えられる。

3. 整理の経過

発掘調査および注記などの整理作業については、鹿児島県教育委員会文化課が行っている。ま

た、平成3年度の住居址出土遺物の整理・報告にあたっては、発掘担当者の指導を受け、当調査室が行った。

今回の再整理は、報告分・未報告分ともに行った。遺物は発掘調査の際、特別遺物と一般遺物に分けて取り上げられ、それぞれにナンバリングされ、台帳に記入されている。注記は、特別遺物は台帳番号のみを付され、一方一般遺物は台帳番号は記入されず、住居址の番号および出土した日付を付されているものが大半であった。また、小さな胴部片のみを集めてビニール袋に入れ、注記が記入されていないものも多くみられた。このような整理状況から、今回の作業は以下の内容で行った。

- 1 特別遺物として台帳番号のみが付されているものの出土地点を確認し、住居址ごとに遺物を分類
- 2 注記の補正
- 3 住居址出土の遺物の器種を把握するため、部位の判別できるもののカード化
- 4 遺物のパーソナルコンピュータによるデータベース化（途中）
- 5 遺物の実測（途中）

住居址出土の遺物のうち、器種や部位が判別できるものは、約2200点であった。これら1点ずつについて、カードを作成し、それをもとに4のデータベース化を行っている。4と5の作業についてはもっと時間を要するため、作業完了後、報告を行う予定である。本書では、カード化したものを基に、住居址ごとに出土した器種・部位別の出土数一覧表を作成し、釘田第一地点住居址出土遺物の概要報告とする。

4. 住居址出土の遺物

（Fig. 4・Tab. 1～29）

住居址出土の遺物数を住居ごとに一覧表で提示した。「成川式」と総称される古墳時代のもののうち、後半期の遺物が主体を占めた。また、小片が多かったため、A～Eという部位に分け、大きな破片については、「A～C」というような表記法をとった。

A 器種

甕

甕a:口縁端部が若干外反するもの

甕b:直線的に直立または内湾するもの

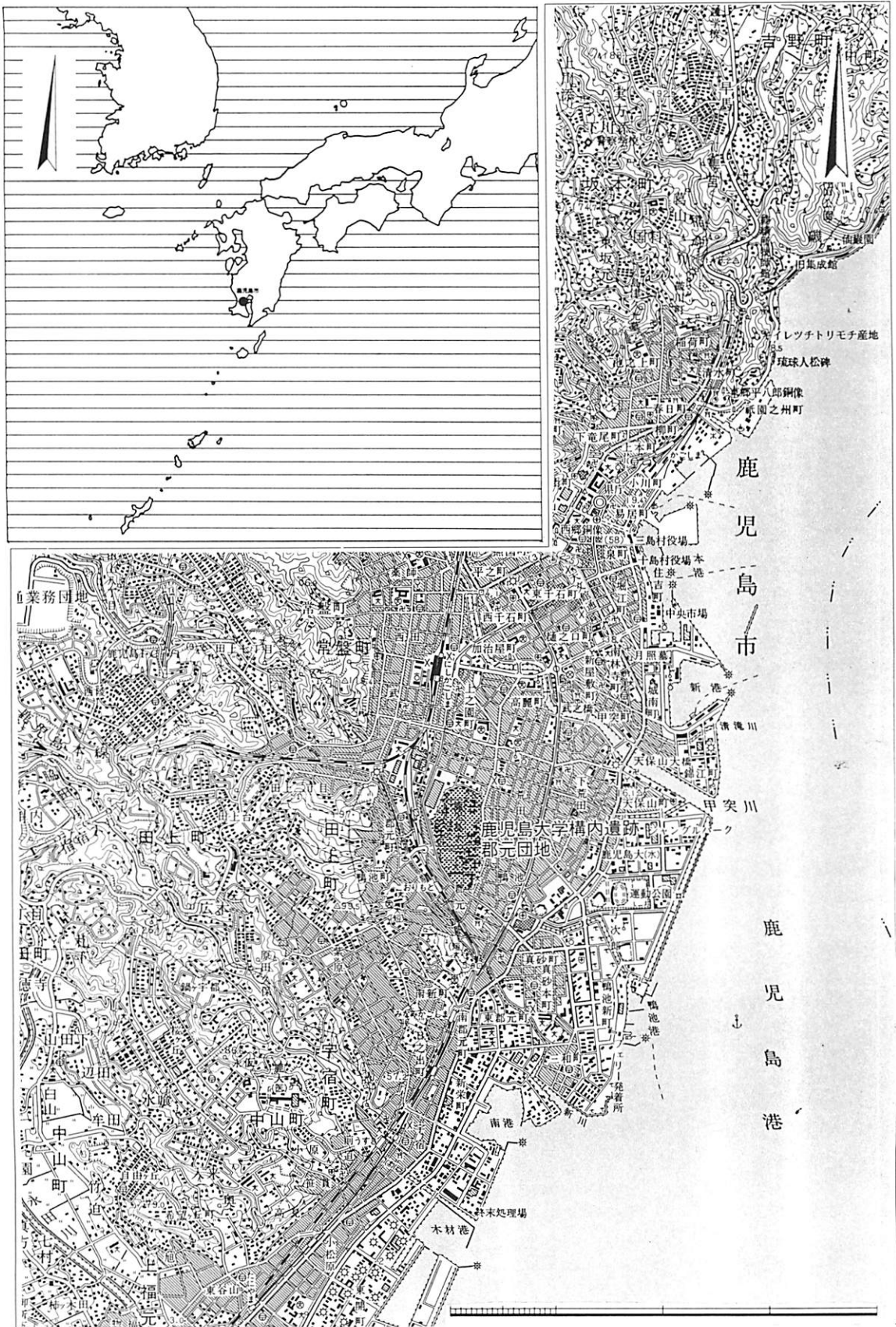


Fig. 1 遺跡の位置

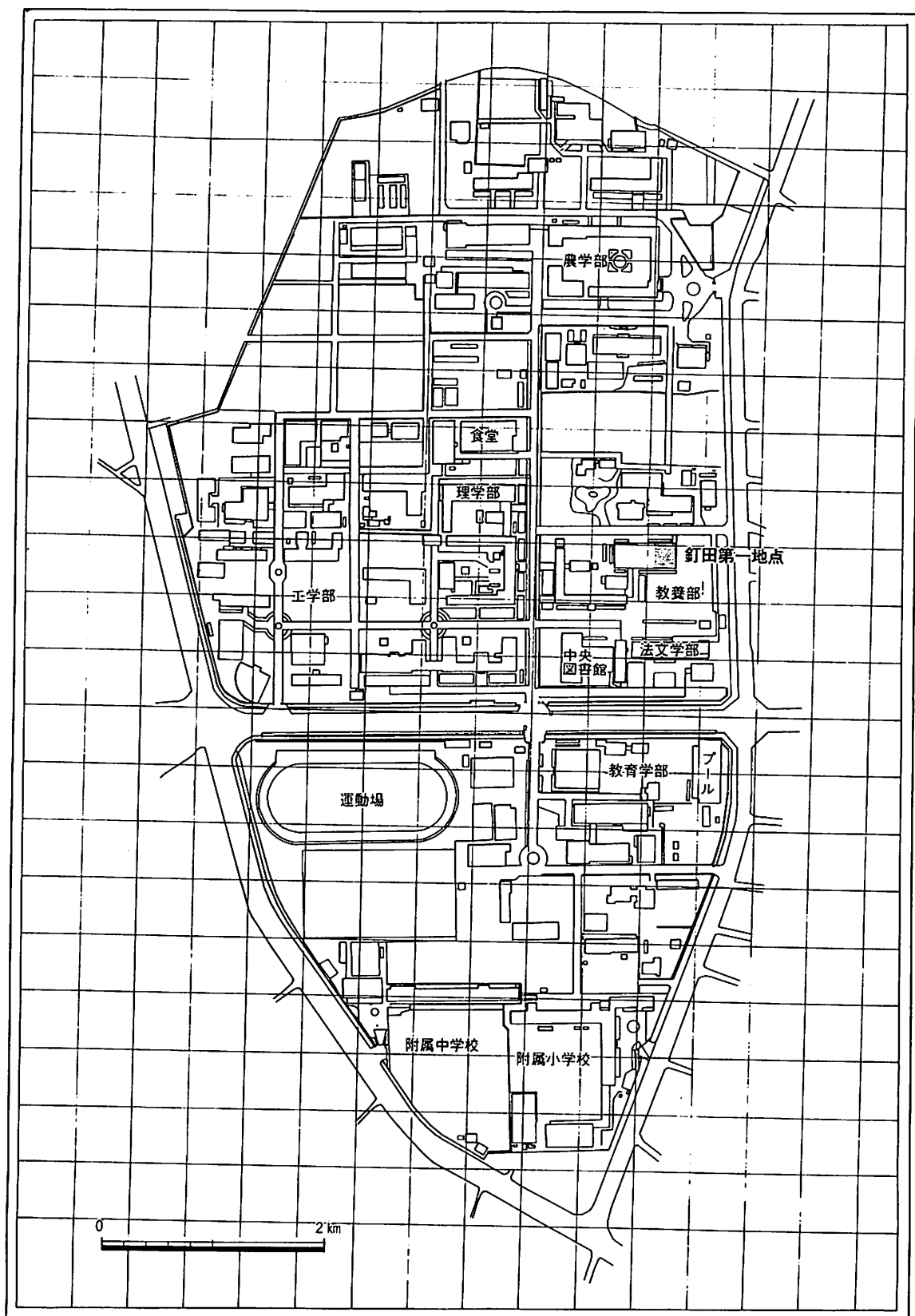


Fig. 2 鹿児島大学郡元団地構内図

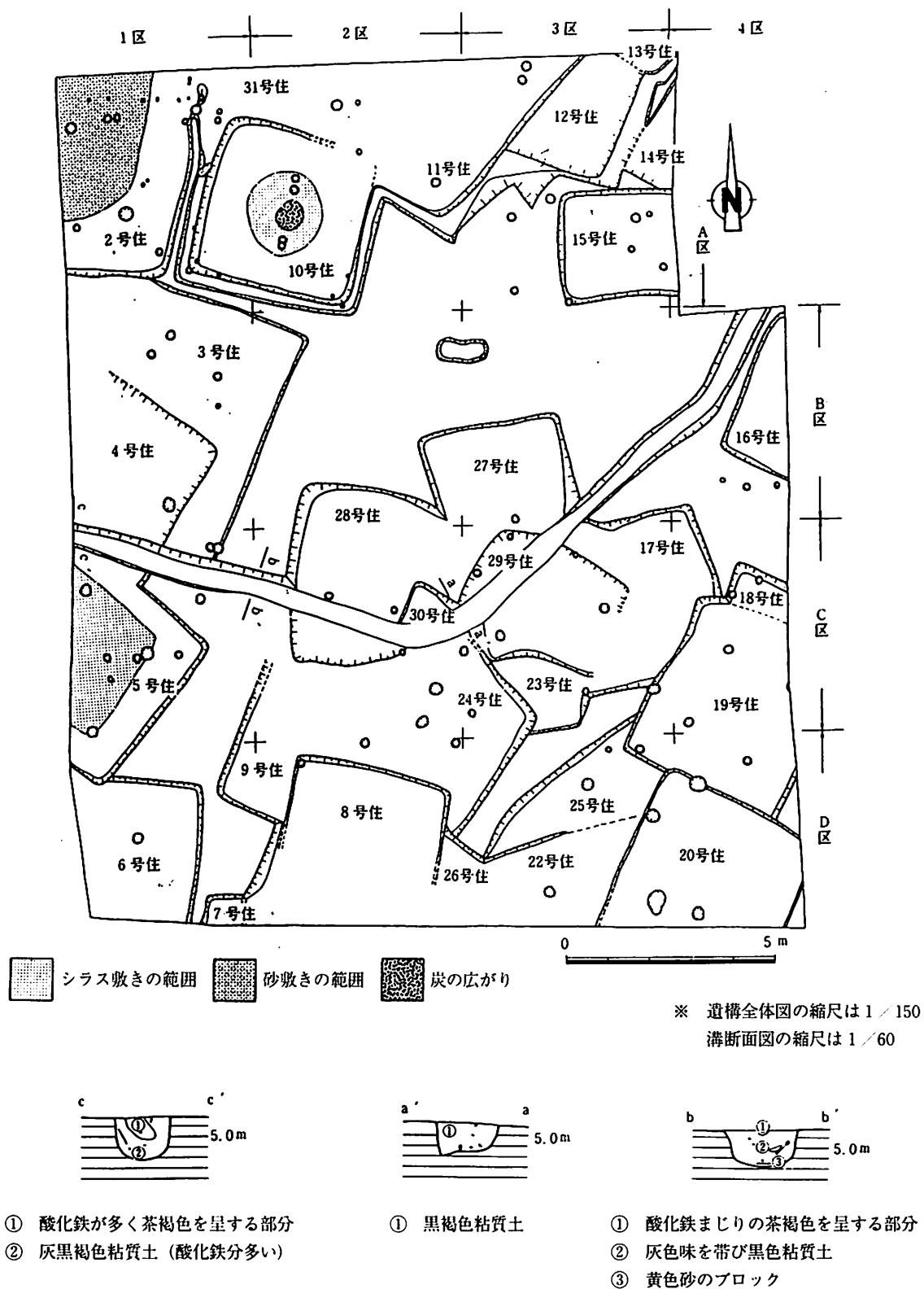


Fig. 3 釘田第一地点遺構図

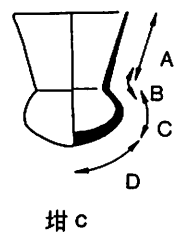
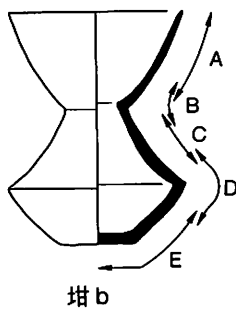
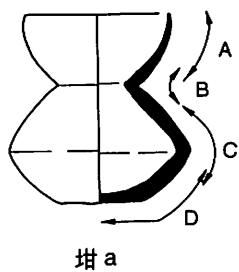
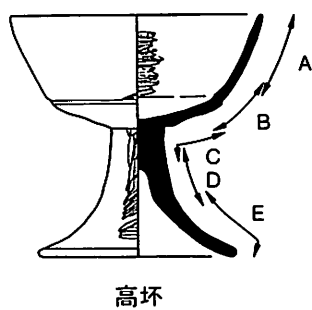
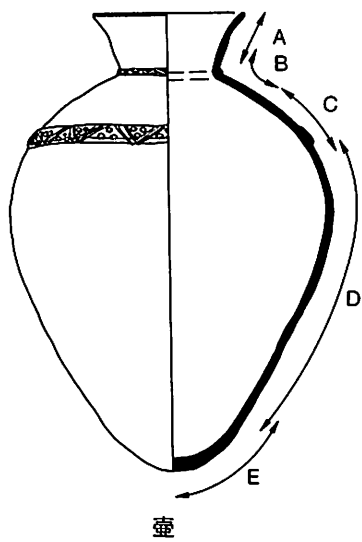
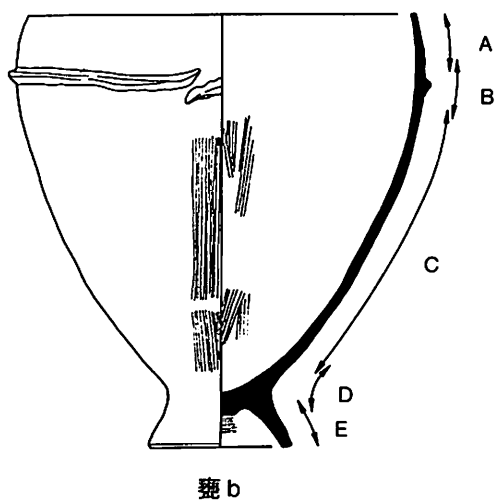
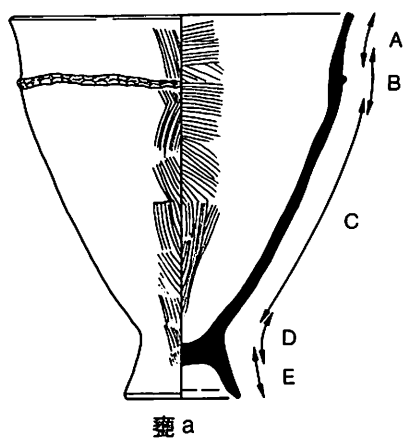


Fig. 4 器種と部位

これらは、口縁部付近のみで判別でき、その他の部分においては明確な形態的な差異を見いだせない。そのため、破片で判別が不能な突帯部分から下部については、甕bの枠に数値を記入した。なお、胴部が浅く、脚をもつ鉢形土器もこの時期に多く見受けられるが、破片では甕との判別が不可能なため、本書では甕の範疇に入れることにした。

壺

壺は大きく分けると無文のものと突帯を施すものがあるが、小さな破片がほとんどであるため、突帯部分以外については、その判別が不可能である。そのため、壺は一器種として取り上げた。

埴

埴は、3つの器種に分類できた。

埴a：口縁部が少し内湾し、胴部が算盤玉状に屈曲するが、明瞭な稜線はつかないもの。

埴b：少し大型のもので、口縁部がaより長く、やはり胴部が算盤玉状に屈曲するが、かなりはっきりした稜線を胴部に持つ。外面に赤色顔料を施しているものがほとんどである。

埴c：器壁が薄く、精緻なつくりで、口縁部が長

く、胴部が小さい形態のもの。口縁部外面に波状文もしくは数条の沈線文を施すものもある。

不明

口縁部もしくは底部など部位はわかるが、器種が判別できないというものは不明として扱った。特に、突帯部分のみの破片は甕か壺の可能性が高いが、その判別は不可能なものが多かった。

B 部位 (Fig.4)

部位は、甕・壺・高坏・埴bはA～Eに、埴a・cはA～Dに分けた (Fig.4)。甕と壺については、突帯の種類によって3つに分類し、それぞれを施されている部位とともに表した。

突帯

1：1条の三角突帯および絡縄突帯

2：1条の刻み目を施す突帯

3：幅広突帯（見かけ2、3条突帯も含む）

底部

1：平底 胴部に比べて、器壁が底部のみかなり厚い。

2：丸底

Tab.1 2号住居址出土遺物

部位	甕a	甕b	壺	高坏	埴a	埴b	埴c	不明	その他
A	6	26	3	8	1	3		2	弥生甕口縁部 3 弥生壺底部 1 須恵器片 1 軽石製品 2
B				4					
B 1	6	20	1					17	
B 2		4						4	
B 3			1						
C						3			
C1									
C2									
C3			1						
D		13							
E		12		1		4			
E 1			1						
E 2			2						
A～B		3	1		1				
A～B2	1								
A～C		1		1					
B～C				1		1			
B～E				1					
D～E		3							

Tab. 2 3号住居址出土遺物

部位	甕a	甕b	壺	高坏	埴a	埴b	埴c	不明	その他
A				7	1	2		5	弥生壺底部 1 須恵器片 1
B	1			1					
B1								5	
B2								17	
B3									
C					1				
C1		1							
C2		1							
C3									
D				2	2				
E				10					
E1		1							
E2		3							
A~B				1				1	
B~D				1					
D~E				2					
C~E				1					

Tab. 3 4号住居址出土遺物

部位	甕a	甕b	壺	高坏	埴a	埴b	埴c	不明	その他
A	21			3	3		2		弥生甕口縁部 1
B				3					
B 1	8	2						7	
B 2	1							2	
B 3									
C									
C 1									
C 2									
C 3		2							
D	4								
E	12			3					
E 1									
E 2		1							

Tab. 4 5号住居址出土遺物

部位	甕a	甕b	壺	高坏	埴a	埴b	埴c	不明	その他
A		30	1	2	2		1	1	軽石製品 1
B				1					
B1		42						3	
B2		3						9	
B3									
C						1			
C1									
C2			1						
C3									
D		4		1	1	1	1		
E		14		4					
E1									
E2									
A～B		3	1					1	
D～E		1		1					

Tab. 5 6号住居址出土遺物

部位	甕a	甕b	壺	高坏	埴a	埴b	埴c	不明	その他
A		2		1	1			1	
B					1				
B1		1	1					1	
B2								5	
B3									
C									
C1									
C2			1						
C3									
D									
E		2		1					
E1									
E2			1						
D～E		1							

Tab.6 7号住居址出土遺物

部位	甕a	甕b	壺	高坏	埴a	埴b	埴c	不明	その他
A	2	86	1	8	3	1			弥生壺（多条突帯） 1 軽石製品 3 石器 1 鉢完形品 1
B			1	2	2	1			
B 1		84						5	
B 2								30	
B 3			3						
C				2	5	4			
C 1									
C 2			1						
C 3			2						
D		13		1	2				
E		49		14		1			
E 1			3						
E 2			1						
A～B			1	1					
A～B 1		1							
A～B 2			1						

Tab.7 8号住居址出土遺物

部位	甕a	甕b	壺	高坏	埴a	埴b	埴c	不明	その他
A		48	1	7			1	1	軽石製品 2
B			1	2					
B 1		57	2					8	
B 2		6	1						
B 3									
C							11		
C 1			4						
C 2									
C 3									
D		16	2			1	1		
E		55	2	11		1		1	
E 1			7						
E 2									
B～C				1					
D～E	40			3					

Tab.8 9号住居址出土遺物

部位	甕a	甕b	壺	高坏	埴a	埴b	埴c	不明	その他
A	26			12				1	軽石製品 3 粘土塊 1
B			1	1	2	1	1		
B 1	34							8	
B 2	1								
B 3									
C									
C 1			3						
C 2									
C 3			6						
D	5			4	1	1			
E	30			4				1	
E 1		1							
E 2		1							
A～B 1	4								
A～B 2	4								
A～C	1 (B 2)			1					
B～C				3					
C～D	5								
D～E				2					

Tab.9 10号住居址出土遺物

部位	甕a	甕b	壺	高坏	埴a	埴b	埴c	不明	その他
A	8			2	1				
B									
B 1	11								
B 2	1							2	
B 3									
C						1			
C 1									
C 2									
C 3			1						
D	2								
E	4			2					
E 1		2							
E 2									
A～B 1	1								
A～C							1		
D～E	1								

Tab.10 10号および11号住居址出土遺物

部位	甕a	甕b	壺	高坏	埴a	埴b	埴c	不明	その他
A		6							
B									
B 1		7							
B 2								2	
B 3									
C									
C 1									
C 2			1						
A									
D		3							
E		6		3					
E 1			2						
E 2			1						
D～E		4							

Tab.11 11号住居址出土遺物

部位	甕a	甕b	壺	高坏	埴a	埴b	埴c	不明	その他
A	1	52		1	5				手づくね土器 1 軽石製品 3 砥石 1
B				3	5				
B 1		38	1					1	
B 2			1					14	
B 3									
C				2	3				
C 1									
C 2									
C 3			2						
D		10	6		1		1		
E		30	4	3		1			
E 1			1						
E 2									
A～B				10					
D～E		14		3					

Tab.12 12号住居址出土遺物

部位	甕a	甕b	壺	高坏	埴a	埴b	埴c	不明	その他
A		10		7	2		1		石器 2
B									
B 1		2							
B 2									
B 3									
C		1		2	2	1			
C 1									
C 2									
C 3			2						
D		3		1					
E		9	2	6					
E 1									
E 2									
A～B 1		1							
A～B 2		2							

Tab.13 13号住居址出土遺物

部位	甕a	甕b	壺	高坏	埴a	埴b	埴c	不明	その他
A									
B									
B 1		1							
B 2									
B 3									
C									
C 1									
C 2									
C 3									
D									
E									
E 1									
E 2									

Tab.14 14号住居址出土遺物

部位	甕a	甕b	壺	高坏	埴a	埴b	埴c	不明	その他
A									
B									
B 1			1						
B 2									
B 3									
C									
C 1									
C 2									
C 3									
D									
E									
E 1									
E 2									
A～B 1		1							
D～E		1							

Tab.15 15号住居址出土遺物

部位	甕a	甕b	壺	高坏	埴a	埴b	埴c	不明	その他
A		1							
B					1				
B 1		1							
B 2									
B 3									
C									
C 1									
C 2									
C 3									
D				1					
E		1							
E 1									
E 2									
A～B 1		1							

Tab.16 16号住居址出土遺物

部位	甕a	甕b	壺	高坏	埴a	埴b	埴c	不明	その他
A	1								
B					1				
B 1	4							2	
B 2									
B 3		1							
C									
C 1									
C 2									
C 3		1							
D	4								
E	2			2					
E 1									
E 2									
B～C				1					
D～E	1				1				

Tab.17 17号住居址出土遺物

部位	甕a	甕b	壺	高坏	埴a	埴b	埴c	不明	その他
A	6			7					
B			1		1				
B 1	12							3	
B 2									
B 3									
C									
C 1									
C 2									
C 3									
D	3								
E	7			2					
E 1									
E 2		1							

Tab.18 18号住居址出土遺物

部位	甕a	甕b	壺	高坏	埴a	埴b	埴c	不明	その他
A		8							
B									
B 1	1	2						5	
B 2									
B 3									
C						1			
C 1									
C 2									
C 3									
D		4							
E		8		2					
E 1									
E 2									

Tab.19 19号住居址出土遺物

部位	甕a	甕b	壺	高坏	埴a	埴b	埴c	不明	その他
A	1	12	1		1	1		1	
B					2				
B 1		4						4	
B 2									
B 3									
C									
C 1									
C 2			1						
C 3									
D		2	1						
E		4		2					
E 1									
E 2									
D～E				1					

Tab.20 20号住居址出土遺物

部位	甕a	甕b	壺	高坏	埴a	埴b	埴c	不明	その他
A	1	9		6	1				軽石製品 1
B					2	1			
B 1		5							
B 2	2	2						1	
B 3									
C									
C 1									
C 2			4						
C 3									
D		1		1					
E		4		2					
E 1									
E 2									
A～B 1		1		1					

Tab.21 22号住居址出土遺物

部位	甕a	甕b	壺	高坏	埴a	埴b	埴c	不明	その他
A									
B									
B 1									
B 2									
B 3									
C						1			
C 1									
C 2									
C 3									
D									
E		2		1					
E 1									
E 2									

Tab.22 24号住居址出土遺物

部位	甕a	甕b	壺	高坏	埴a	埴b	埴c	不明	その他
A	16		2	3	2	1			軽石 1 方形口縁鉢 1
B				4					
B 1	3		4					7	
B 2	1		1					7	
B 3			2						
C									
C 1									
C 2									
C 3									
D	3			1	2				
E	8			4					
E 1			2						
E 2									
A～B 1	2								
D～E	2			1					

Tab.23 25号住居址出土遺物

部位	甕a	甕b	壺	高坏	埴a	埴b	埴c	不明	その他
A	1	12		4	2		2	1	軽石製品 1 石器 1
B				2	1				
B 1	7							1	
B 2			1					3	
B 3									
C									
C 1			1						
C 2									
C 3									
D					2				
E	4			4					
E 1			2						
E 2									
A～B	1								
D～E	1			1					

Tab.24 26号住居址出土遺物

部位	甕a	甕b	壺	高坏	埴a	埴b	埴c	不明	その他
A	2	7	4	4	1	1			軽石製品 2 石器 2
B				4					
B 1	1	9	4					9	
B 2								7	
B 3									
C					1	1			
C 1									
C 2									
C 3			1						
D		6							
E		7		1		1			
E 1			1						
E 2									
A～B					2				
A～B 1	1	1							
B～C				1					
C～D				1					
D～E		3							

Tab.25 27号住居址出土遺物

部位	甕a	甕b	壺	高坏	埴a	埴b	埴c	不明	その他
A		8							
B				3			1		
B 1		8							
B 2								3	
B 3									
C									
C 1			1						
C 2									
C 3									
D				2					
E		2							
E 1			1						
E 2									
A～B 1		1							

Tab.26 28号住居址出土遺物

部位	甕a	甕b	壺	高坏	埴a	埴b	埴c	不明	その他
A	1	4		1	1				
B			1	1	1				
B 1		9						3	
B 2									
B 3									
C				1					
C 1									
C 2									
C 3									
D		3		4	1				
E		5		2		2			
E 1			1						
E 2									
A～B				1					
A～B 1		2							
A～B 2		1	1						
D～E		1							

Tab.27 29号住居址出土遺物

部位	甕a	甕b	壺	高坏	埴a	埴b	埴c	不明	その他
A		6							軽石製品 2 粘土塊 1
B									
B 1		8							
B 2								1	
B 3									
C					1				
C 1									
C 2									
C 3									
D		7							
E		8		1					
E 1									
E 2									
A～B									
A～B 1		1							

Tab.28 30号住居址出土遺物

部位	甕a	甕b	壺	高坏	埴a	埴b	埴c	不明	その他
A	6								軽石 3
B									
B 1	8								
B 2								4	
B 3									
C					1				
C 1									
C 2									
C 3									
D									
E	1								
E 1									
E 2									
A～B 1	1								

Tab.29 31号住居址出土遺物

部位	甕a	甕b	壺	高坏	埴a	埴b	埴c	不明	その他
A									
B									
B 1	2								
B 2									
B 3									
C					1				
C 1									
C 2									
C 3									
E				1					
E 1									
E 2									
A～B 1									
B～C					1				

5. まとめ

釘田第一地点の住居址出土遺物の整理を行い、その結果得られた所見を以下に記す。

1. 遺物は、古墳時代の後半期の土器が大半を占めていた。その他、砥石や軽石製品、また、弥生時代中期の甕の口縁部片が見受けられた。
2. 土器は破片がほとんどで、完形品は少なかった。また、住居の床面に密着して出土したものは少なく、大半が埋土中に浮いて出土したものである。
3. 遺物の量を住居址ごとに比較すると、H-2・7・8・9・11が多い (Fig.5)。

部位がわかるものだけでなく、遺物が埋土中より出土した遺物全体をみても、遺物量は部位がわかる破片の量におおよそ相関しており、7号住居址、8号住居址、11号住居址、2号住居址に多く出土した。住居の位置を確認すると、2号住居址と11号住居址が調査区の北側に、7号住居址、8号住居址が調査区の南側に位置している。また、2、8、7、11号と、3つのグループにそれぞれ遺物が集中し、その周辺に拡散するような土器の分布状況がわかる。

4. 器種別に比較すると、甕が多く、次いで高坏、壺、そして埴a、埴b・cという順である。

今回は無文の胴部片は数えなかったため、高坏のような部位がわかりやすい器種と壺のような胴

部で無文の部分が多い器種を量的に比較するのは問題があり、この結果が個体数を反映しているものではないと思うが、壺と同じく無文の胴部の部分が多い甕が非常に多く出土しているのは、やはり注目すべき点であると考えられる。

住居址内の遺物の散布状況で3つのグループに分けることができたが、包含層出土の遺物についても、出土状況の量的な検討を行う予定である。また、遺物の観察に際して、これらのグループが遺物の形態や調整などの細かい癖等とある程度の相関があるのかどうか注意する必要がある。個々の実測や観察などの整理作業を進めていく上で、これらのことに留意しながら、作業を進め、その結果を報告していく予定である。

註

- 1) 鹿児島大学埋蔵文化財調査室「付編. 釘田第一地点 (鹿児島大学教養部) 遺跡発掘調査報告—遺構及び遺構出土の遺物編—」『南九州地域の原始・古代文化の諸様相に関する総合的研究』平成3年度教育研究学内特別経費研究成果報告書 鹿児島大学法文学部 1992



Fig. 5 遺物の出土状況

釘田第一地点（鹿児島大学教養部）遺跡発掘調査報告
— 遺構出土遺物の概要 —
（昭和50年度 鹿児島県教育委員会文化課調査）

平成 6 年度教育研究学内特別経費研究成果報告書

平成 7 年 3 月

編集・発行 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

鹿児島市郡元一丁目21番24号

TEL. 099-285-7270

印刷

斯文堂株式会社

鹿児島市南栄3番1号

TEL. 099-268-8211
